園長と語ろう

― 私との約束 ―

園長　家田　美里

一部のクラスはクラス便りでもお伝えしていますが、四月の終わりにももぐみの子ども達から「ことしもきゅうりをうえたいです」とお願いされました。昨年みんなで植えて、先生達と子ども達で世話をして、運転手の吉田さんにアドバイスをもらい支柱も立ててもらい…など、たくさんの人の力で豊作だったきゅうりです。毎日収穫をし、むらさきみそをつけて食べていました。やはり自分達で育てたきゅうりの味は最高だったのでしょう。今年も植えたいという声が上がりました。子ども達の声を何でも受け入れたい私としましては心の中では即ＯＫでしたが少し条件をつけてみました。「ちゃんと自分達で植えて、毎日のお世話ができるならいいですよ」というと口々に「やるー」「できるー」と満場一致。「わかりました。ではみんなできゅうりを植えましょう」という訳できゅうりを植える事になりました。一応他のクラスの担任にも「こんな声が上がってますがどうしますか？」と伝えておきました。するとだいだいのくみもれもんのくみも「うえたい」と言いに来て、どちらのクラスにも「自分達で毎日世話をする事」と約束をしました。しろのくみだけは「きゅうりを植えたいですか？と聞いてもまだわからないと思います」との事でしたが、お兄ちゃん、お姉ちゃん達の姿を見たら、きっと世話をしたくなり、食べたくなるであろうと苗を用意する事にしました。山本先生に苗をお願いしたのですがここで第一の失敗。金曜日に苗を預かり土・日を挟んだのですが真夏ではないので大丈夫と思い込んでいて、土・日に水をあげに来ませんでした。月曜日に園に来ると、苗はグッタリしていました。あれ？と思いましたがそれでも大丈夫と復活することを願って、次の日に植える事にしました。一日経っても元気になっていないように見えましたがみんなで植えて、前日に作ったクラス名のピック（風のもの）を付けて、各クラスのきゅうりのプランターができあがりました。（何故か予備の苗がだいだいのくみのプランターに植えてあり、だいだいのくみの苗は二本になっていました）

さて、次の日からの子ども達は？と言いますと私との約束通り、毎日水やりをしています。ペットボトルに水を入れては運び、自分のクラスのプランターに一生懸命注いでいます。そんな事を３日間続けましたが苗はグッタリしたまま復活はなりませんでした。私達が勉強不足だったので子ども達が気づく前に何とかしなければと思い元気な苗に植え替えて、何事もなかったようにそっとしておきました。月曜日の朝、登園して来た子ども達は、「大きくなってる！」と喜ぶ人、何か違うけど元気になったのか？と何とも言えぬ変な感じで、あまり苗の事にはふれない人とそれぞれでしたがそのまま水やりを続けました。実は担任も土・日に交替で朝一に水やりをがんばっていました。ここから第二の失敗。全クラスの苗が元気になりました。特にしろのくみには、中でも一番元気のいい苗に植え替え、朝日が当たる一番いいところに置きました。担任の心配を吹き飛ばすかのようにしろのくみのみんなも志賀先生と一緒に水をあげていました。そうしているうちに水をあげる事が楽しくなったしろのくみのみんな。気がつけば何度も何度も水をあげてくれていて、なんとなく苗が「もうお腹いっぱい…」と言ってるように見えました。水をあげすぎては大人が止めて、を何日間か繰り返していました。他のクラスの苗はグングン大きくなり支柱を立てないといけないぐらいに育ってきました。さて、しろのくみのきゅうりはといいますと、全く大きくならず、見るからに元気がなくしおれてきました。ダメかぁと思いながら毎日見ています。ここでも私達の勉強不足が出てしまいました。とは言え、きゅうり農家さんのようなプロではないので、浅い知識で子ども達に「あれはダメ」とは言えず、わからないながらも子ども達から教えてもらい楽しく育てています。先日とうとう、だいだいのくみの一つの苗のきゅうりが食べ頃を迎え、子ども達が収穫をし、遊戯室・職員室の阿弥陀様にお供えをして、全員でむらさきみそをつけて食べました。少し皮が硬めの新物をいただけました。これから先、どんどん食べ頃になってくるこの絶品きゅうりを楽しみにしています。保護者の方も運がよければ園に来た時にお裾分けに当たる日があるかも。今回はむらさき幼稚園の日常を少しお知らせしてみました。

